

月報

<452号>

ケルン・ボン日本語
キリスト教会

二〇二一年八月五日発行

「すべての者よ、わたしのもとに来なさい」

佐々木良子

昨年から続いているコロナ禍に追い打ちをかけるように、世界の至るところで自然災害が続いています。更に直近では、アフガニスタンの政権崩壊を目の当たりにして、心に痛み、悲しみや憤り等を抱きながら、世界の行く末に不安を感じている人が多いのではないのでしょうか。

最近、インターネットで現代の世相を反映している投稿に目が留まりました。「この時世なのか、ランニング途中で見た神社（複数）は、いつもよりもだいぶ多くの人が参拝にいらしているようだった。」と、世界が混乱極める今、人々は神社に心の拠り所を求めているようです。

このような時代だからこそ、私たちは聖書の御言葉を聴くことによって与えられる、主からの慰めと励まし、希望をお伝えする使命があると、思わされているこの頃です。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」（マタイによる福音書一章二八節）と、イエス様は招いておられます。原語では、「すべての者よ、わたしのもとに来なさい。」と記されています。そして、「休ませる」とは「新鮮な命の力を与える」という意味が

あります。文字通り、誰でもイエス様に招かれており、イエス様のもとで新鮮な命の力を頂き、真の安らぎを得ることができるといふ約束です。

しかし、この御言葉の続きに目を留めなくてはなりません。「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛（くびき）を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。」（二八節）とイエス様は仰います。私たちは思います。イエス様のもとに行って、重荷を下ろしたのに、更に何か苦役を強いられるとは・・・。

では、「わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。」とは、どのようなことでしょうか。軛とは木や鉄で出来た農耕用具の一つで、動物の首や肩に装着し、二頭の家畜が並んで土を耕す鍬などをひっぱって畑の中を歩く時に、家畜の肩にかけられるものです。軛を負わされた家畜は、自分の好き勝手にではなく、軛を負わせた者の意図に従って働きます。その時初めて軛は意味をなします。

軛を負うとは、軛を負わされたイエス様の呼びかけを聞きながら、イエス様に学び、イエス様の御心に従って生きることです。そうして歩み始めた時に、真の安らぎが与えられると、仰せになります。言い換えるならば、イエス様の軛を負わず、自分の好きなように生きることとは、真の安らぎは得られないということです。

神様のご意志、イエス様の軛を負わせて下さる方のご意志に従って生き始めるとき、そこにわたしたちの真の慰めがあり、平安があるのです。私たちは奴隷の軛につながれているのではないのです。パウ

ロはわたしたちを苦しめ悩ませる奴隷の軛から、わたしたちは解放されたれていると語っています。（ガラテヤの信徒への手紙五章一節〜六節）

このようにイエス様のもとに来て、重荷を下ろし、肩の荷が下りれば本当の安らぎを得られ、重荷から解放されて幸せになる、とはイエス様は仰っております。

私たちの人生には様々な重荷があり、負うべきことが日々現れてくることを経験しています。時には苦しみ、疲れ、絶望も覚えたりします。私たちの人生から重荷、といわれるような困難等が全てなくなった時に初めて安息があるわけではないのです。

苦しんだり、涙を流したり心を痛めながら必死で生きている私たちの人生の口中で、私たちの命に責任をもってくださっているイエス様の呼びかけに聞き従い、イエス様に導かれる歩みによって、本当の安らぎが与えられます。

昨年より混沌としているこの世に生かされている私たちは、様々な思い煩いや不安でいっぱいになっています。しかし、私たちが真の安らぎへと導いてくださっているイエス様がいつも共におられます。そして、イエス様は両手を広げて「すべての者よ、わたしのもとに来なさい」と、全ての人を迎えてくださっています。それは誰も奪うことのできない慰めと平安に満ちた幸いな軛です。

イエス様の軛のもとにある安らぎを感謝しながら、全ての人がイエス様の招きの御声をお聴きすることが出来ますように切に祈ります。

『教会バザーのこぼれ』

藤井弘子

「コロナが収まっていれば、今年は『第四〇回記念バザー!!』になる」ところでしたが、昨年に続いて今年も開催中止になりました。

当教会のバザーは、故棟方文雄牧師夫人、故棟方さつ姉が提案され、ご夫妻が帰国された翌一九八一年、当時礼拝場所としてお借りしていた「Freie Evangelische Gemeinde (自由福音教会) Köln-Lindenthal」で始まりました。近くのケルン日本文化会館や大学のメンザ(食堂)に広告を貼って頂くと、驚く程の(主に日本人の)お客様が来て下さり大成功でした。

並ぶ商品は年々発展しましたが、初めはカフェテリアが中心でコーヒー、紅茶、緑茶、美味しい和洋菓子(教会員、一さんの名前を冠して『菓子舗一屋』)が並びました。教会のメンバーが変わっても常に作り手が与えられて、今日まで年に一回のケルン・ボン日本語キリスト教会のイベントとして、大袈裟に言えばケルン市民のお楽しみとして広くご愛顧頂いて来ましたが、当初は聖日礼拝後の一五時から開店していました。いつの頃からか、NRW州の祭日である一月一日(Allerheiligen)カトリックの祭日『万聖節』が当教会のバザーの日として定着しました(この日が聖日に当たる年はバザーの開催日を一日ずらしています)。バザー当日が秋晴れとなり、皆様が墓参やお散歩の途中に立ち寄り下されるかどうか、と空模様がいづもバザー前の心配事です。



収益は、第一回から(数回の例外を除いて)ずっとドイツのプロテスタント教会の事業である『Brot für die Welt (世界にパンを)』に捧げられており、世界の貧困・飢餓救済のお役に立っていることは感謝です。バザーは、当教会の存在を知って頂くことが第一の目的ではありませんが、実際半分は、いやそれ以上に七タのように年に一回、懐かしい友人・知人に会える大切な機会でもあります。

食堂で食べたり、蚤の市、古本市で買いたい物をして下さる方々とともに、毎年必ずお手伝いに来て下さる方々があります。Mさんは何と欠席は一回のみで残りの三八回全参加です。当教会がこんなに盛大なバザーを今日まで続けてくることが出来た陰に、この応援団の愛がありました。ボンで営業していた寿司屋の店長さんの実演販売があったり、長期に亘ってノルウエーの『アベ屋』からバザー用に大量の手作り羊羹や塩鮭が、手書きの『みことば』付きで送られて来ました。横浜の磯子教会婦人会は沢山の和物を何度も送って下さいました。こうしてバザーのことを考えていると、その時々教会生活を共にした懐かしい方々のお顔が浮かんで来ます。ちなみに礼拝場所が、一九九〇年に同じケルンのDietrich-Bonhoeffer-Kircheに移ったので、礼拝堂もバザーに使えるようになり、思い切って礼拝堂の椅子を隅に片付け、別の椅子とテーブルを運び込んで食堂に変身させました。



以後毎年大勢のお客様が安くて美味しい日本食、ケーキ等を食べに来て下さるので、バザー収益は上がっています。ただ、年と共に教会員やお手伝いの方々の高齢化が進み、礼拝堂の模様替え(会場設営とバザー後の片付け)が少し大変になって来ましたが、食堂や即売品のお値段について申しますと、マルクからユーロに移っても、Bon(食券)は一枚五〇セントの時代が長く続き、材料費と見合わなくなっていました。例えば太巻き寿司一個がBon(五〇セント)、イナリ寿司一個Bon(五〇セント)は余りにも安すぎました。協議を重ねて二〇一九年に思い切ってBonユーロにしたのですが、それでも市価の半額程度の値段ですから、値上げ前と同じように買って頂けました。ちなみに、第三八回バザーの純益は四千ユーロを越えました。

三九年間欠かさずことなく開催できて来た教会バザーですが、コロナ禍によって二度も開催中止となりました。私たちは神様から何かを問われているのでしょうか。心を騒がせないで尋ねて行きたいと思えます。皆様と伸び伸び自由にお会いする日(バザー)が一日も早く来ますように!! キリストに在って、シャローム

新聞にも掲載!! (二〇一〇年)

懐かしい手書き



Sushi war der Renner

Ein populäres japanisches Gericht, das zum Wortschatz des Bonhoeffer-Nachbesuches...



《第一回 修養会の皆さんからの感想》五月二六日(日)

礼拝後スカイプにて 一五時三〇分～一七時五〇分

「教会生活ハンドブック」古屋治雄著、神を礼拝する生活より

★どうなることやらと思いつながらの参加でした。小グループに分かれることはスカイプでは出来ませんでした。皆さん一人一人の意見、感想を聞くことが出来たのは良かったです。それにスカイプだと遠くに住んでいる人も参加することが出来ました。

★私たちが教会に通うようになったきっかけは人それぞれに異なります。今回の修養会で読んだ古屋先生の書かれた本にもありましたが、クリスチャンホームに育った人、キリスト教系の学校で聖書に触れた人、あるいは書物を通してキリスト教に触れるチャンスがあった人、等々。そこで私はどうだったかな、という疑問が浮かびました。ケルン・ボン教会に数年通い洗礼を受けた私は、何を求めて礼拝に出席していたのか、そして最終的に洗礼を受けるきっかけは何だったのか、改めて考えるチャンスが与えられたような気がしました。聖書に聞く礼拝とは異なり、ハンドブックをベースにした話し合いで、出席された皆さんのたどられた様々な道について聞くことができました。

★思えば情性になりがちだった日曜礼拝が新たに求める気持ち、敬虔な畏れを持って過ごす新鮮なものに変わったのは修養会以来かも。讃美歌を歌うのも気持ちがあく。違う環境で生まれ、違う神様との出会い、そしてその歴史を持つ我々一人ひとりが心一つにして過ごせる、十字架の縦線と横線の接点に礼拝かなと…ふっと思わされた一時。

★スカイプでどのようになるかと思いましたが、人数的にもまとまっていてよかったです。

★個人の意見が聞けてよかったです。

★礼拝は賛美、祈り、説教が一つになっていること、説教のみならず、賛美も大切なことが分かりました。

★最後に一人一人がお互いのために祈ることができてよかったです。

★コロナ禍の修養会は実際に行ってみて、良かったです。佐々木先生がITの色んな機能を使う方で有り難いです。ITを上手に色んな機能を使えば、結構お互いの顔を見ながら話し合いが出来る事が分かりました。じつと他人の話聞く訓練にもなることかも。

★久しぶりの修養会でした。最後に覚えているのが、ライン川を見下ろす教会施設で教会生活についてだったように覚えています。今回はいろんなことを学び教会生活も慣れてきていたので、どこか当たり前と読み流していたかもしれませぬ。

「コロナ禍での入国」(二回目のドイツ)

佐藤春美

「あら、日本語が聞こえるわね。」近所のスーパーEDEKAでシュミット亜弥子さんにその声をかけられたことが、私たちと教会の皆さんとの縁の始まりでした。二〇一八年に夫の研修で一年間ケルンに住み、ケルンで子を授かり出産まで経験しました。



初めての出産でもあり

不安もたくさんありましたが、佐々木先生のお宅で開かれていた「ママの子育て学び会」に参加するようになって、子育ての先輩たちと知り合い、支えていただき、心を強く保てたことを今も感謝しています。夫の研修の修了とともに一度日本に帰りましたのち、今年

からまた皆さんのもとに戻ってきました。

二〇一八年にこちらに来たときと今回の大きな違いは、やはりコロナ禍でロックダウン中のドイツへ渡航する事でした。世界各国が入国制限を強めるなか、ドイツ赴任が内定した二〇二〇年夏頃からは、ほとんど毎日「ドイツ入国制限」を検索しては情報が更新されないか確認していました。夫は仕事なので入国出来る可能性があるけど家族はダメでした。夫の住民登録、就労ビザが発行されてから離散家族の再会措置で入国出来ることでした。毎日子どもたちを寝かせた後には不安が押し寄せてきて泣きそうになっていました。二歳と〇歳の娘二人を私ひとりで連れて行くのは無理、でも頑張りなきゃ、でも無理…(猫は夫と一緒に行く予定でした)「家族がバラバラにならないように…どうか一緒に行かせてください。」と毎晩祈ってました。

今回のドイツ生活は最低三年となるため、メンテナン스가大変な持ち家を売却することは前々から決めていたものの、家なんてどうしよう売れるものではないだろうなと思っていました。ところが、たまたま一〇年間のヨーロッパ赴任を終えて戻ってこられたご家族に購入いただく運びになり、あれよ、あれよと手続きが進んで幸運にも家は売れました。しかし問題は、年明けから私たちの住処がないこと。夫の出国まではホテルで一週間過ごし、その後私と娘二人はどこで生活するのか決まっていませんでした。夫の実家は義妹家族と同居…私の実家はブラジル…結婚したばかりの私の妹夫婦が新居で暮らしているのでそこにお世話になるのか…妻く悩んでいました。

そんな毎日過ごし、年が明けて引越しも終えホテル住まいになり、また「ドイツ入国制限」と検索しました。「一月一日より日本からのドイツへの入国制限の解除」大使館の公式サイトに書いてあってビックリ!!すく夫に伝え現地に確認、旅行会社にも連絡し

てもらいました。祈りが通じた…!!嬉し涙がでました。飛行機、ホテル、急な変更だったけど対応してくれて家族揃ってドイツに来ることが出来ました。航空会社もドイツへの渡航可否を把握してなくて日本から出るのも少し大変でドイツの入国もすんなりではなかったけど、家族四人と猫一匹みんな一緒に来る事が出来て本当に良かったと思っています。入国出来たら後にはもう気が楽でした。二〇一八年に知り合った皆さんに助けていただき生活もすぐに落ち着きました。ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願います。

「ヨーロッパキリスト者の集い」

七月二十九日～八月一日、フランス・ストラスブールにて
 欧州内にある教会や集会等に参加されているキリスト者が、毎年夏に集まり、夏の風物詩になっていますが、昨年はコロナ禍の為に中止となりました。

今年も危ぶまれていましたが、感染者が一人も出ずに開催できたことは奇跡的なことでした。
 主の助けと背後にある多くのお祈りと共に、委員の方々の多大なご尽力によるものでもありました。
 残念ながらキャンセルされた方々も多くありました。が、ZOOMによる同時配信により、異なる場所から参加することができ、オンライン上で共に恵みを分かち合うことができ、印象に残る集いとなりました。

宜しかったら以下のサイトからご覧ください！

ダイジェスト版
https://www.youtube.com/watch?v=VT7wXC9h6kg&ab_channel=KojiroMatsubayashi
 スライドショー
https://www.youtube.com/watch?v=cqusQsWe4M8&ab_channel=KojiroMatsubayashi
 参加教会・集会紹介ビデオ
https://www.youtube.com/watch?v=c50xqHdW-6M&ab_channel=KojiroMatsubayashi

◇ 報 告 ◇

◇五月一六日・礼拝後一五時三〇分～一七時五〇分
 イブにて「礼拝」をテーマに修養会をおこないました。
 ◇六月より接触制限が緩和された為に、ママの子育ての学び会、読書会は一同が集まって集会を開くことができるようになりました。

◇六月七日、外国語教会協議会に佐々木良子牧師とシユミット亜弥子姉は、ズームにて参加しました。

◇七月四日、子どもの礼拝、ママの会に参加されていたご一家の歓迎会礼拝を、ボン・ヘッファー教会にて行いました。教会員一同、一年振りに会堂で再会しました。尚、ご一家は七月二七日に無事に日本へ帰国されました。

◇一九九八年四月から二〇〇一年三月迄、私たちの教会で御用された村椿嘉信牧師(六九歳)が召され、七月一八日・前夜式、七月一九日・告別式が沖繩島のわん日曜集会所にて執り行われました。

◇七月二十九日～八月一日、フランス・ストラスブールにて、ヨーロッパキリスト者の集いが開催され、佐々木牧師が参加されました。

◇洪水災害支援献金は、教会で纏めて五〇〇ユーロを『Gemeinden helfen Gemeinden』(この度の水害で被災した教会を支援するための募金)にお届けいたしました。

◇ バザー中止のお知らせ ◇

毎年、十一月一日に開催されていましたが、今年もコロナ感染拡大防止のために中止いたします。

◇ お知らせ ◇

◇九月より礼拝は、第二・四週目に会堂にて再会いたします。尚、スカイプ同時配信です。第一・三週目はスカイプにての礼拝となります。(状況に応じて変更の場合もありますので、ホームページでご確認ください)

◇ 家庭集会再開のお知らせ

ケルン集会 九月九日(木) 一～二時三〇分
 シユミット亜弥子姉宅
 メーアブッシュ集会 九月八日(土) 一四時三〇分～一五時三〇分
 藤井隼人兄・弘子姉宅

◇ 予 告 ◇

◇第二回目教会修養会は九月十九日(日) 礼拝後、スカイプにて行います。

◇九月二六日・一八時、外国語教会主催による夕礼拝をアントニア教会にて行います。

◇ 諸集会について ◇

聖書の学び会・祈祷会 スカイプにて毎週水曜日 一〇時
 ママの子育ての学び会・読書会 変動的ですので、牧師までお問い合わせ下さい。尚、子どもの礼拝は暫く休会となります。随時、ホームページでご確認ください。

編集後記

この月報は欧州内、そして日本へと送付させて頂いていますが、先日のキリスト者の集いで、ある方が「ファイルに保存してありますよ」と、仰ってくださりとても嬉しかったです。これからも教会の皆様と励んで参ります。(佐々木良子)

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
 Japanische Evangelische Gemeinde
 Köln-Bonn e.V.
 <主日共同礼拝>
 会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche
 住所: An der Decksteiner Mühle 1
 50935 Köln (Lindenthal), Germany
 電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)
 時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00
 <牧師> 佐々木良子 (Pfr' Ryoko SASAKI)
 牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln
 固定電話: 02234-9298792
 携帯電話: 0151-2910 6278
 Email: r310130s@yahoo.co.jp
 <ホームページ>
<http://koelnbonn.jp>
 <振込口座>
 IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
 BIC: PBNKDEFF